

令和4年度福岡市農林業振興審議会

- 1 開催日時 令和4年8月25日（木）13：30～
- 2 開催場所 オンライン会議
- 3 出席者 福岡市農林業振興審議会委員 19名（別紙委員名簿参照）
鬼木会長、藤野会長職務代理者、甲斐委員、矢部委員、佐藤委員、
岡安委員、三成委員、宇都宮委員、おばた委員、津田委員、
篠原委員、井上委員、倉元委員、中村委員、宮嶋委員、新野委員、
横田委員、宮寄委員、新開委員
欠席 3名
丸小野委員、田中委員、笠委員
市側 農林水産局長他 9名
藤本農林水産局長、浦塚総務農林部長、光益中央卸売市場長
重総務課長、森塚政策企画課長、西野農業振興課長
野見山森林・林政課長、永田農業施設課長、梶原市場課長
生野青果市場長
- 4 傍聴者 0名
- 5 次第
 - 開会 委員紹介
 - 委員紹介
 - 議題 福岡市農林業の現状と取組みについて
 - 農業を取り巻く情勢及び目標項目の進捗状況
 - 森林・林業を取り巻く情勢及び目標項目の進捗状況
 - 令和4年度農林業振興施策
 - 閉会
- 6 議事
議題「福岡市農林業の現状と取組みについて」について事務局より説明

【会長】

これより審議に入りたいと思います。まず、農業部門と林業部門に分けてご意見等を頂いた後に、農林業振興施策全般についてご審議をお願いしたいと思います。お手元の資料も参考にされながら、皆さんが日頃からお考えのことなどについてご発言いただければと思います。

それではただいまの説明を踏まえまして、農業分野についてご意見がございましたらお願いいたします。

【委員】

少しだけ質問させていただきます。資料1の3ページですけれども、下のほうの新規就農者が減っていますね。これは今後どういうふうに対策を取られるのかなというふうに思います。これが第1点です。

それから8ページの下の方ですが、農業生産額を見ると令和2年は減額になるんですけ

れども、令和2年はコロナの初年度なのでその影響があったかと思いますが、お米については自然災害のお話を伺いましたが、畜産については枝肉価格の低下があったということもあると思うんです。こういうふうに令和2年に減額になった要因も、少し指摘していただくといいんじゃないかなと思います。

また、そのことは11ページの野菜についても、市内産消費量が減っていることについても何か言及があったらいいと思います。

最後は資料3の最終ページの9ページですけれども、この原案を作った頃から比較して令和2年にコロナ、令和4年にロシアのウクライナ侵攻による穀物の高騰、そして令和4年の円安、その3つの危機がありますけれども、農業や食料を取り巻く3つの危機についての言及といいますか、それについての対策として具体的には9ページのところに飼料高騰に対する補填とか、そういうことはないのかなと思います。

いずれにしてもよくできていると思いますが、コロナ、ウクライナによる穀物の高騰、それから円安、そういう3つの危機に対する言及があったらもっといいかなというふうに思いました。以上です。

【農業振興課長】

ご質問ありがとうございます。

まず1点目ですけれども、資料1の3ページの下のところでは新規就農者数が令和3年度19名ということで、これに対してどのような対策をとるというご質問でございます。

今までも新規就農者が増えるように研修であったりとか、あとは資金的な支援、国の制度も活用しながらいろいろ実施してまいりました。令和3年度は残念ながら前年28名よりもちょっと下がった19名となっておりますけれども、その前の令和元年度の20名、30年度も21名ということで、割と20名前後というのは最近の取り組みとしては頑張っただけで伸ばしてきたところがございます。令和2年度の28名がちょっと良かったかなというところもございまして、傾向としては以前は10名程度で推移していたものが今20名前後で推移しているということで、増えてきている状況でございます。引き続き、今行っている支援策をしっかりとやって、新規就農者が定着できるように進めていきたいというふうに考えております。

2点目でございます。8ページのところで、生産額でございます。これはその後の質問とも、11ページの野菜の市内産の消費量との関連もございまして、令和2年についてはコロナの影響等がございまして、ちょっと生産額が落ちているという状況がございまして。特にコロナの関係で当初の時点で一番大きな影響を受けたのが冠婚葬祭、そういったことが減ったということで花卉に関する需要が落ちている、金額も減っているといったことがございました。

もう1つ、外食が減った、外出ができなくなったということで、牛肉の価格、枝肉価格が落ちたというような、そういうことが令和2年にございました。ただ、その後令和3年にかけては消費額、消費量とも増えておりまして、比較的順調に生産額等は回復してきたものと考えております。

引き続き、ウィズコロナの時代ではございますけれども、消費がきちんと進むように取り組んでいきたいと考えております。

最後に3点目です。今回、園芸産地育成事業ということで、この事業を行いました。こ

これは燃油価格の高騰を受けてということ、もちろんウクライナの関係等国際情勢いろいろありまして上がっております。この施策につきましては、特に燃油の高騰による影響を受けやすい施設園芸農家のヒートポンプという暖房のための省エネ型機械があるんですけども、これを支援することで施設園芸農家がこの冬以降も引き続き燃油高騰が続いた場合に備えて、それに対応できる体制をつくる。従来は、新規導入に対しては国や県の助成の施策があつて、それを活用して支援を行っていたんですけども、更新に関する支援策がなかったということで、本市独自で機械の更新に対しての支援策を設けて支援を行うこととしたものでございます。

このほかにもいろいろ、肥料の高騰であったりとか飼料価格の高騰であったり、なかなか農家を取り巻く環境としては厳しいものがございまして。そういった中で、国あるいは県も施策を打ってこられていますが、市としてもどういった施策が必要なのか、そういったところをしっかりと声を伺いながら、支援策について今後も検討して進めていきたいと考えております。以上でございます。

【委員】

教えていただきたいんですけども、13 ページの5 番で、野生鳥獣によるうんぬんというところがありまして、福岡市においても有害鳥獣の捕獲が非常に年々増えていっています。それに関して、確保されたものに関しては何か人間が食べるようなメニュー開発とか、そういうことなんかもされているのでしょうか。

【農業振興課長】

市内でこういった形で、猟友会の方のご協力を頂いて有害鳥獣の捕獲を行っております。集まったものにつきましては、猟師さんが自らさばかれて食べられるというような場合もあるんですけども、どうしてもお肉の管理というのは難しいところがございます、そのまま廃棄といいますか、埋めたりとかそういったことで対応しているケースが多々ございます。

近年こういった、イノシシ肉が多いかと思うんですけども、ジビエの活用ということも叫ばれております。ただ、猟友会の方に伺いますと、ジビエで活用するためには捕まえたあと1 時間以内に処理をしないとイケないであったり、あるいはそれを活用して出荷するに当たっては比較的均一な品質が求められるけれども、季節によって個体差がありましてなかなか一定したものではなくて活用しにくいと、そういった声があるというふうにも伺っております。

ただ、大切な命を処分してというような話になりますので、極力活用ができるよう福岡市としてもジビエの活用方策がないものか、市の近郊ではジビエの解体作業をされる工場等もございまして、そういったところと連携しながら今後もう少し活用を進めていくことができないか検討していきたいと考えているところでございます。以上でございます。

【委員】

北海道のエゾシカ協会の方の話では、北海道はかなりエゾシカが多いということで、まだまだ食の安全に関するセンターが少ないと。そういうものは行政のほうで、ジビエに関して安全に食べられるようなセンターをつくっていただいて、そして私たちもプラントベースフードでいろんな食品とかメニュー開発をやっているんですけど、ぜひこういうイノシシとかシカに関して人間がおいしく頂けるような、動物の餌になったりとか地に埋める

のでなくて、ぜひ食べて頂きたい。

私も北海道から送ってきたシカ肉を食べた時に、調理次第で発酵を上手にさせたり、調味料を上手にするととてもおいしく食べられるので、実は今、北海道と一緒にメニュー開発をやっているんです。そういう意味では福岡市さんも、衛生管理がしっかりしたセンターができた上で、食料の確保につながる取組みができたらいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

資料3の第1ページです。「予算」のところを見ると、農林業予算が昨年度に比べて24%増加しております。それから林業については、97%も増加している。その理由について、説明をお願いできないでしょうか。

【農業振興課長】

まず、農業につきましては今年度、総合計画の1年目ということで、これから担い手の支援等をしっかり行っていく必要があるということで、例えば資料3の2ページ目にございますけれども、新規事業として「未来へつなげる農村の担い手支援事業」といった事業を新たに起こして実施することとしております。

これまでなかなか地域の農業を支える方への機械の支援というのができておらず、高齢化が進んでいる中で、今後そういった支える方の支援を充実させていく必要があるということで、こういった事業を新たに起こしております。重点事業以外でもいろいろ事業の拡充を行っております、その関係で今回予算額が農業について増えているという状況がございます。以上でございます。

【森林・林政課長】

林業については、令和元年度より国から森林環境贈与税が配分されており、年々配分額が増加した関係で予算が増えています。

また、市民の森等リニューアル事業の整備が今年度から本格化し、その関係で約5億7000万円を予算計上しており、対前年比197%になっています。

【委員】

資料1の31ページの「市民の意識」というページです。福岡市が住みやすいというのはいろんなところで言われているのはよく分かるんですが、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」というところは、これは福岡市内のものがあるとかそういうこととリンクしているわけではなくて、それが市民の意識としてという、どういう内容で調査をされたのかなというのは少し気になりました。そこは福岡県内のものも含めたものになっているとは思いますが。

【農業振興課長】

この市民調査につきましては、毎年市の広聴課のほうで市民を対象にした意識調査を行っております。その中の項目で「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」というのを毎年出しまして、それに対する支持の割合というのを集めたのが今回の結果でございます。

確かに福岡市で、新鮮でおいしい食べ物の豊富さということで、市内産だけではなくて市内にいてそういうおいしいものが食べられるという、そういう意識もあるのかもしれませんが、市内産に限定したというわけではないですけれども、やはり市内にはトマトであったり、春菊であったりあまおうであったりとか、そういうおいしい食べ物がいっぱいござ

いますので、そういったところもこの指標が伸びている一助になったのではないかと考えております。以上でございます。

【委員】

一方で、こういう意識があるからと言った時に、前の方の数値を見た時に、そう楽観視できない部分も中には数値があるわけですね。農業者が残っていないとか新規就農者がいないとか。そういうこともございますので、その部分の市民と実際に生産する側の意識のギャップと申しますか、その辺ってすごく大きくあるのかなと、そういうところが見えてないのかなと。小中校ですとか、そういうところへの市内産の農産物の提供も行っていることは分かるんですけども、そこがちょっとリンクしていないのが少し残念だなと。あくまでも残念だなということで見させていただいたんですけども、そういうところにリンクしていくと、もう少し改善する面が出てくるかと思ひまして、ちょっと質問させていただきました。ありがとうございました。

【農業振興課長】

今回、総合計画を策定するに当たって生産者の方からの声が多かったのが、「生産の実態についてもっとみんなに知って欲しい。福岡市内でどういうふうに行われているのか、いいものができている、みんな努力して作っているということを知って欲しい」というご意見もございました。今回の総合計画、今後5カ年の中でその辺りをしっかり市民の方にも知っていただけるような情報提供であったり、発信を行っていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

【委員】

資料2の3ページ、「市民と森林のかかわり」の中に、市民が期待する森林の役割として、「土砂崩れなどの災害防止」があります。森林だけの問題ではなく、農地も含め土砂災害の警戒区域等に対して何ら具体的に手が打たれておらず、県の計画では、福岡市内で150カ所程早急に対策を取らないといけないところがありますが、年に2カ所程度しか進んでいない、これは何とか進めるべきと思います。昨年の審議会でも、侵入竹の被害対策について農林業総合計画に入れるべきではないかと指摘しました。侵入竹対策は、資料3記載の森林環境整備事業で予算確保されているのではないかと思います。それにしてもあまりにも予算が少ないのではないのでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。今のご質問につきましては森林部門になるのかという気もいたします。

農業関係について、ご意見はほかにございませんでしょうか。

【委員】

こうした会議は、長期にわたって施策を総合的に考察するものでありますが、短期的なもの、例えば今回のウクライナもですが、お話にも出ておりましたが国・県の施策等を見ながら市行政としても考えていくということでございました。

国からは9月の頭に説明があるとの情報が入っておりますけれども、市として今後考えていただくときに、適用される事業主体から漏れられる農家、特に私ども東部農協の方では大きな規模でやられてる農家さんは少のうございますので、もし行政の方でそういった方々も救えるような施策等ができるのであれば、ぜひお願いしたいと。質問としてはござ

いませんけれども、要望として挙げさせていただきたいと思います。

【農業振興課長】

ありがとうございます。

県の施策、国の動きで、どういった支援をやるかというところが明らかになってまいりますので、そういったところで福岡市の農家さんがその支援を受けられないところ、どうい方が受けられないのか、その辺りをしっかり把握した上で、支援の必要性について考えて進めていきたいと考えております。以上でございます。

【会長】

他になれば、先ほど森林関係に関しましてご意見ございましたので、事務局からお答えできればお願いいたします。

【森林・林政課長】

侵入竹対策について、昨年度の審議会の中でご指摘いただいたことを踏まえ、農林業総合計画に侵入竹対策を追記しています。侵入竹対策に関しては、その対策に取り組む団体に対し、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を交付することで活動を支援しております。

【委員】

まず、資料2の6ページに豪雨による林道被害が近年、頻発しているとありますが、崩壊する場所や地質等、被害の傾向をデータ化して改良や修繕に生かすなどの取組みがあれば教えていただきたいです。

昨年度策定した農林業総合計画に、林道台帳の整備を行うこととなっていましたが、林道台帳に災害のデータを追加しているかお尋ねします。

次に、木材利用推進について資料2の15ページ⑥の「市公共施設整備の木材使用量における地域産材の割合」は令和3年度は6.3%で、それまでに比べて高くなっている一方、⑤の実際に使われた量は620m³で、これまでの年度平均よりも少ないです。

施設の計画で木材使用量が増減することは理解できるが、今後に向けて木材使用量を計画的に進めていくような取組みがあれば教えてください。

3つ目に、木材の乾燥工程を兼ねたウッドベンチを製作し、それを玩具にする報告があったが、ベンチとして乾燥して、さらに玩具にする点について積極的な意味があれば、教えてください。

【森林・林政課長】

林道の被害については、同じ場所が壊れることはありますが、統計的なデータは持ち合わせていません。主に谷になっている箇所や水路になっている箇所など、もともと災害に弱いようなところが壊れている状況はあります。

林道台帳は、工事発注の際にそのデータを使用しており、工事内容は林道台帳に追記しています。

木材利用の推進について、指摘のとおり、公共施設の計画増減による木材使用料の増減はあります。

市内産材を安定的に供給していくことが重要と考えております。福岡市には150校区ほどあり、小学校や公民館は各校区に1つずつ設置されています。そういった施設の建替えや改修が毎年数館ずつ行われておりますので、そこに市内産材、地域産材を充てていくということを地域産材流通の仕組みづくりの一つとして検討しています。

資料3、8ページ③「ウッドベンチ利活用事業」は実証実験的に市内産材のPRを目的として、木材の乾燥工程を兼ねた木製ベンチを製作しています。

資料2の5ページ左上の写真がウッドベンチになります。現在、間伐材を利用したベンチを福岡タワーの展望室に置いています。こちらはまだ乾燥前の木材を使っており、これを自然乾燥を兼ねてベンチにしております。半年から1年程度展示し、その後この木材を使用して玩具を作る試みに取り組んでいるところです。

【委員】

ストーリー性のある、市民に見える化する形で木材活用を進められていることが分かりました。

【委員】

地域産材の利用促進の取組みについて記載されていますが、北海道で、小学校入学時に、間伐材などでいすを作って子どもたちにプレゼントしている町があります。福岡市でも例えば、油山市民の森等で、小学校に入学する子どもたちと一緒にいすを作って、プレゼントするなど、市民への見える化の取組みを1つ提案したいと思いました。

北海道の事例では自分の物という意識を持ち、中学・高校になっても大事に使っているということを知っています。

佐賀県でスギの間伐材を利用して一汁三菜のお膳を作ってもらい、大学やレストランでも使っていただいています。間伐材で市民が日常使えるお膳などを作って、安く提供できれば、市内産材のPRになると思います。

【森林・林政課長】

市内民有林人工林の約8割が伐採時期になっていますが、市内産材は市外原木市場に搬出され、産地がどこか分からないような状況になっているので、まずは認知度を上げていくことが重要と考えています。

資料2の4、5ページのとおり、市内産材についての情報発信の取組みを行っています。また、博多工業高校と連携して、間伐材で様々な製品に、小物を作るなどの試みもしていますので、市民に大切にしてもらえぬものを作っていきたいと考えています。

【委員】

一汁三菜の木製膳を作り、焼き印を押したものを1,000枚程度大学で利用しています。福岡市の印を押すなどして、間伐材でお膳などを作って、レストランや居酒屋などに売ってはどうかと思いました。

【森林・林政課長】

資料2の5ページの左下の写真は博多工業高校のインテリア科が作った木工作品です。コースターやまな板を作っています。オリジナルのデザインで焼き印を押し、まだ、これは販売していませんが、今後、高校の実習で販売に向けて製作したいということを知っていますので、油山の間伐材等を市から供給するなど、連携を図っていきたいと考えています。

【会長】

そのほか林業に関してのご意見がございましたらお願いします。

(発言者なし)

【会長】

それでは農業または林業、どちらでも結構でございます。何か皆さま方で全体を通してございましたらお願いいたします。

(発言者なし)

【会長】

それではこれもちまして、本日の議事については終了とさせていただきます。委員の皆さまには熱心にご審議をいただきましてありがとうございます。事務局に会議の進行をお返しいたします。

【総務農林部長】

会長並びに委員の皆さまには長時間のご審議、ありがとうございます。本日頂きました貴重なご意見を踏まえ、さらなる福岡市の農林業振興に努めてまいります。

本日の議事録につきましては、福岡市情報公開条例に基づき公開することとなっております。事務局において議事録を作成し、委員の皆さまにご確認いただいた後、福岡市ホームページにて公表させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして令和4年度農林業振興審議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

—— 了 ——